

英・米・アイルランドの大学・図書館の所蔵する

中世小説について（上）

勝 俣 隆

On the Medieval Tales in Universities and Libraries of United Kingdom, United States and Ireland (First)

Takashi KATSUMATA

文部省在外研究員として、平成十年八月一日より九月三十日までの二ヵ月間、米・英・アイルランドの大学・図書館を廻って、所蔵される中世小説について調査する機会を得た。本稿はその調査報告である。今回は紙幅の都合から、アイルランドのチェスター・ビーティー図書館とイギリスの大英図書館の調査のみについて報告する。他の図書館での調査については、改めて言及したい。今回の二ヵ月の限られた時間での調査は、もとより不完全なものであるが、それでも従来行われた調査での誤り等をいくつか指摘することが出来た。

本稿の誤りも少なくないと思うが、将来、さらに訂正し、また、訂正されることを期したい。以下、閲覧機関名と、書誌を掲げる。

一、チェスター・ビーティー図書館所蔵の中世小説について

アイルランドの首都ダブリンにあるチェスター・ビーティー図書館は、世界の優れた美術品を集めていることで知られているが、中でもエジプト・イスラムやインド関係、中国・日本の美術品が多い。日本関係のものは、チェスター・ビーティー卿が、大正六年(1917)の春四ヵ月日本を訪れて収集したものが中心であるが、後に追加されたものも含まれ、かなり多くの書籍・工芸品が所蔵されている⁽¹⁾。中世小説に関しても興味深い作品が多い。今回、そのほとんどについて閲覧する機会を得たので、その書誌と気づきについて報告したい。反町茂雄氏の解説と国文学研究資料館が調査した報告書(『調査研究報告』十五号、以下引用する場合は資と略記する。)が既にあるが、後者は誤りが少なくないので、気づいた点は訂正しておいた。丸付き数字の意味は次の通りである。①写本・版本の区別。②所蔵者整理書名。③所蔵者整理番号。④外題。⑤内題。⑥刊写年時。⑦保存状態。⑧保存形態。⑨表紙の生地、色、模様。⑩見返し。⑪料紙。⑫装丁。⑬数量。⑭表紙寸法。⑮字高または匡郭。⑯表紙以外の紙数(遊紙の丁数)。⑰本文の行数。⑱絵の状態、数量。⑲その他(奥書・刊記。蔵書印。入手の経緯。気づき等)

なお、卷子本の全長については、見返しを含めるかどうか、尾紙の扱い等、問題が多い。

本調査では、原則として、見返しや尾紙を含めることとした。尾紙の測り方は、本文末尾から、軸の中央部分までの長さとした。また、⑱の絵の数量では、国文学研究資料館は、絵の内容に係わらず、半丁分を一面と計算しているが、本調査では、絵の内容により、一枚の絵が見開き両面に渡る場合、二面ではなく、一図と計算したので、ご了解頂きたい。

1, 朝比奈

①写本 ②ASAHINA MONOGATARI EMAKI, The Tale of Asahina 朝比奈物語絵巻 ③CBJ 1132 (Sor. 56) ④朝ひな物かたり ⑤なし ⑥江戸初期頃か(反町氏は、慶長頃写, 延宝頃補写)とする。⑦良 ⑧桐箱入り 箱書き なし ⑨布地 カーキ色の地に寿と宝尽くし ⑩金紙(原装) ⑪鳥の子(金泥で草花の下絵) ⑫卷子本 ⑬一軸 ⑭31.2×913.0cm(資は880) ⑮濃彩 五図(前四図は、住吉具慶, 末尾一図は土佐光信の筆と伝える。)

2, 酒吞童子

①写本 ②OEYAMA EMAKI The Tale of Oeyama 大江山絵巻 ③CBJ 1145 (Sor. 6) ④剥落 ⑤なし ⑥江戸初期頃か(反町氏は、慶安・寛文頃写)とする。⑦並 ⑧黒漆箱入り 箱書き なし 箱貼り紙「6 大江山絵巻 3軸」⑨布地 藍白無地 ⑩金砂子(原装) ⑪鳥の子 ⑫卷子本 ⑬三軸 ⑭33.0×1495(見返しを除くと1471)(上巻), ×1362.5(1336)cm(中巻), 1046.5(1020)cm(下巻) ⑮濃彩 上巻11図, 中巻6図, 下巻6図 ⑯本書は、先に拙稿で言及したように特異な挿絵を有する。特に、酒吞童子登場の場面で、目陰をしていない点、酒吞童子の髪の毛が白髪である点が注目される。前者は、管見では、他にニューヨーク公立図書館蔵本があるのみで、後者は、チェスター・ビーティ一本のみである。白髪の酒吞童子が本文の読み間違いから来ていることは、先に指摘した通りである。なお中巻四図で、舞を舞う鬼が折敷を持つのは、曼殊院本に通じる。蔵書印「富本」

3, 江島物語

①写本 ②江島物語絵巻(貼り紙, 並びにカードは、板額(はながく)女絵巻, Hangan-gaku) ③CBJ 1124 (Sor. 13) ④剥落 ⑤なし ⑥江戸前期頃か(反町氏は、寛文頃写とする。) ⑦並 ⑧桐箱入り 箱貼紙(13 江島物語絵巻2 1巻。) ⑨草色布地に牡丹・蝶の金欄 ⑩金無地(原装) ⑪鳥の子(草花下絵) ⑫卷子本 ⑬一軸(本来は二軸。現存上巻のみ) ⑭32.8×1180.5(資は1547)cm ⑮27cm ⑯濃彩 4面 ⑰他に日大に現存するのみの貴重な作品。

4, 村松物語

①写本 ②村松物語 ③CBJ 1127 (Sor. 4) ④なし ⑤なし ⑥江戸初期頃か(反町氏は、正保・慶安頃写)とする。 ⑦並 ⑧桐箱入り 箱書き なし ⑨表紙 原装は金茶色地金欄格子宝尽くし文様。現在は改装されて、朽葉色地に金銀の桜文様。⑩金箔布目地(原装も同じ) ⑪鳥の子(金泥で草花の下絵) ⑫卷子本 ⑬三軸(本来は十八軸。巻三・八・十四巻。残りの十五軸のうち、巻一・二・四・五・六・七・九・十・十五・十六・十七・十八の十二巻は、広島県佐伯郡大野町の王舎城美術寶物館に現存する。⑭33.5(資32.5)×1274.5(資1203)cm(上巻), 1279.0(資1209)cm(中巻), 1275.5(資1205)cm(下巻) ⑮27cm ⑯濃彩 十一図(上巻)・九図(中巻)・十図(下巻) ⑰絵は連続した絵でも、繋ぎ目の模様が異なるので複数の画家が分担して描いたことは

明らか。反町氏の解説や室町時代物語大成の解説は、チェスター・ビーティー図書館所蔵本は、松平子爵家旧蔵のうちの三巻であるとしている。しかしながら、王舎城美術寶物館に所蔵される『村松物語』は、本書と一対のものと言われるが、数は十二巻ある。十二巻のうちの九巻が松平子爵家旧蔵のもので、残り三巻は、別に入手したとも考えられるが、不自然である。王舎城美術寶物館の十二巻が、松平子爵家旧蔵の十二巻であって、チェスター・ビーティー図書館のものは、別のルートから入ったと考えた方が自然でなかろうか。

5, 義経地獄破り

①写本 ②YOSHITSUNE JIGOKU YABURI, The Story of Yoshitsune's Invasion of Hell 義経地獄やぶり ③CBJ 1017 (Sor.11) ④なし ⑤なし ⑥江戸前期頃か（反町氏は、寛文頃写）とする。⑦良 ⑧布貼り紙箱入り ⑨藁色地に蝶の群舞の図、裏表紙は茅の図。⑩金地に卍繋ぎ（原装）⑪鳥の子（草花下絵）⑫袋綴（資は列帖装）⑬二冊（上下）⑭24.4×32.5cm ⑮19.0×27.0 ⑯上冊25丁（資は23丁）含遊紙2丁（資は1丁），下冊20丁（資は18丁）含遊紙2丁（資は1丁）⑰12行 ⑱濃彩 七図（上冊）・六図（下冊）⑲反町氏も資も指摘するように、事件の傍観者が挿絵に描かれている点に特徴が見られる。

6, 武蔵坊弁慶物語絵巻（弁慶物語）

①写本 ②MUSASHIBO E ENGI, The Tale of Musashibo Benkei 武蔵坊絵縁起 ③CBJ 1117 (Sor.1) ④武蔵坊繪縁起 上（中・下）（題簽・書・原・左）（白紙砂子散らし，金泥下絵の題簽）⑤なし ⑥室町時代末期（反町氏は，足利中期から末期）とする。⑦良 ⑧黒漆箱（39×23.5×9.5cm）入り 箱書き「武蔵坊繪縁起画 中務丞光弘筆 詞今川了俊之筆」（金字）。箱裏は梨地 ⑨紺地菊唐草に鳳凰紋，錦繡裂地 ⑩金地に菊霞草草等 ⑪鳥の子（下絵）⑫卷子本 ⑬三巻（上中下） ⑭33.8×1410（資は1387）cm（上巻），1251.5（資は1259）cm（中巻），1288.5（資は1271）cm（下巻）⑱濃彩 九図（上巻）・十一図（中巻）・十図（下巻）⑲新日本古典文学大系に徳田和夫氏が翻刻・校注。

7, はなや

①写本 ②HANAYA, The Story of Hanaya はなや ③CBJ 1047 (Sor.40) ④尾形乾山筆・奈良繪本 はなや 全（題簽・書・原・左）⑤内題 なし ⑥近世中期写（反町氏は、「延宝・元禄頃写」ととする。）⑦並 ⑧帙入り 帙題 「はなや」 帙の裏書き「昭和廿二年十一月廿日 資南子」（資南子とは，戸川資南，即ち戸川浜男。）⑨朽葉地に牡丹唐草文様 ⑩銀（資は金）砂子散らし（原装）⑪楮 ⑫袋綴 ⑬1軸 ⑭32.2×23.2cm ⑮28×18cm ⑯二六丁，遊紙なし ⑰八行 ⑱濃彩 十図（資は11面）⑲蔵書印 資南（戸川浜男）・残花書屋。帙同封の紙片「Japanese Album Nara book. Nara-e-han(マヽ) No. 47 - "Hanaya" - one of the best of its type according to Prof. Watson.」帙の裏書き（鉛筆）「#421 OGATA KENZAN "HANAYA"」[R. CB(1958)]とあり，1958年にチェスター・ビーティー卿が入手したことが分かる。なお，反町氏は，「題簽の肩に『尾形乾山筆』と書き添え，又挿絵中の一枚中に『乾山筆』と書き入れてあるのは，共に後人の妄記である。」とするが，絵の屏風に『乾山筆』と書き入れてあるのは，三箇所あり，「後人の妄記」ではなく，原本から存在したものであろう。勿論，

これは尾形乾山の自筆という意味ではなく、本書の画家が、屏風絵を遊び心で、乾山のものとしたのであろう。このことは、本書の成立が、乾山の生存年（寛文三（一六六三）～寛保三年（一七四三））よりも後であることを示そう。反町氏は、本書の成立を「延宝・元禄頃」とするが、延宝元年には、乾山はまだ十歳で早すぎる。元禄でも三十代であるから、乾山の名声を利用したのであれば、もっと後の時代の成立とみるべきだろう。本書は孤本である。

8, 玉藻の前

①写本 ②TAMAMO NO MAE, The Story of lady Tamamo no mae. 玉藻の前 ③CBJ 1046 (Sor. 12) ④玉ものまへ 全 三冊 (題簽・書・原・中) (題簽は、柿朱に金泥で霞) 中・下の題簽は剥落。⑤たまものさうし 上 (中・下) ⑥近世初期写 (反町氏は、「寛文頃写」とする。) ⑦並 ⑧帙入り 帙題「玉藻之前草子 寛文以前奈良繪本 # 414 TAMAMO NO MAE 三冊」(これは、反町氏が書いたものらしく思われる。) ⑨縹色地に宝尽くし、丁子・石榴唐草・瑞雲模様 ⑩白地に銀砂子散らし (原装) ⑪鳥の子 (草花の下絵) ⑫列帖装 ⑬三冊 ⑭23.5×16.6cm ⑮19×14cm ⑯上冊 23丁 (遊び紙, 後ろに1丁), 中冊 24丁 (資は23丁) (遊び紙, 前後に1丁ずつ), 下冊 17丁 (遊び紙, 前後に1丁ずつ)。⑰十行 ⑱濃彩上冊 三図 (二ウ・十一オ・十九ウと二十オ), 中冊 五図 (六ウ・九オ・十一オ・十八オ・二十一ウ), 下冊 六図 (二ウ・七ウ・十オ・十一ウ・十四オ・十五オ) ⑲『玉藻の前』には、末尾の玄翁和尚と殺生石の逸話の有無で二通りあるが、本書は、逸話を有する。絵は素朴であるが、雰囲気はよく出ている。

9, 酒飯論

①写本 ②SHUHANRON EMAKI, Painted Scroll of the Debate over Sake and Rice 酒飯論絵巻 ③CBJ 1121 (Sor. 39) ④なし ⑤なし ⑥近世初期写 (反町氏は、「延宝元禄頃写」とする。) ⑦並 ⑧桐箱入り (箱の一部損・・・この箱は反町氏が用意したものらしい。) ⑨鉄紺地の緞子に卍, 十字囲い, 三片花模様 ⑩金泥に銀で霞模様。銀は変色。「中左衛門大夫仲成申様」とあるのは、登場人物の一人を使った作品の題名のつもりか。⑪鳥の子 ⑫卷子本 ⑬一軸 (上のみ) ⑭34.1×1229.5cm (資は1200) ⑮31cm ⑯濃彩 上巻 十図

10, 十二類歌合

①写本 ②十二類歌合 ③CBJ 1154 (Sor. 10) ④十二類歌合 (題簽・金字で書・原・左) ⑤なし ⑥近世初期写 (反町氏は、「寛文頃写」とする。) ⑦良 ⑧桐箱入り (作りなおした新品の箱) ⑨シトロングリーン地に金欄でリス・狐・兎の模様 (これは、京都で補修された時に新たに付けられた表紙で、原装でない。資に拠れば、「支子色地に金欄唐草」が本来の表紙の装丁であった。⑩金無地 (原装は資に拠れば、「金箔卍繋ぎ」) ⑪鳥の子 (金銀で草花模様) ⑫卷子本 ⑬三軸 ⑭35.3×1084.5cm (資は1093.5) (上巻), 986.5cm (資は923.5) (中巻), 1139.5cm (資は1071.3) (下巻) ⑮濃彩 上巻 八図, 中巻 七図, 下巻 九図 ⑯物語の季節は、秋から始まり、冬に終わる。狸の遁世譚として、季節の運行と凋落の運命を重ね合わせた可能性があるだろう。反町氏が「画中に細字の書入のある体裁も古い形で好ましい。・・・この時代の奈良絵の絵巻としては希有の名品。」と指摘されたのは、その通りであろう。

11, しぐれ

①写本 ②SHIGURE(MONOGATARI), AN Autumn Shower しぐれ ③CBJ 1045 (Sor. 25) ④清水物語 (題簽・書・原・左) (題簽は白地に霞) ⑤なし ⑥近世初期写 (反町氏は、「寛文延宝頃写」とする。) ⑦良 ⑧朱漆塗り箱入り 箱書き「清水物語」 ⑨紺地に金泥で霞と草花模様 (中巻は蓮と浮草模様) ⑩布目金箔押し ⑪鳥の子 (草花の下絵) ⑫袋綴 ⑬三冊 ⑭28.8×22.5cm (資は30.3×22.3) ⑮23.5×18.0cm ⑯上冊 25丁 (資は24丁) (遊紙前1丁), 中冊35丁 (資は34丁) (遊紙前1丁), 下冊 28丁 (遊紙前1丁) ⑰一〇行 ⑱濃彩 上冊 6図 (三ウと四オ, 七オ, 一四オ, 一八オ, 二一ウ), 中冊 7図 (三オ, 七オ, 十ウ, 一五ウ, 二一オ, 二五オ, 三三オ), 下冊 6図 (二ウ, 六オ, 十一オ, 一四ウ, 二十ウ, 二四ウと二五オ) ⑲蔵書印 夢秀 (朱・陰刻)。本書について, 反町氏の解説や, 資は, 「清水物語」とあるのは誤りだとする。しかしながら, 中将と姫君の出逢いは, 清水寺においてであり, 清水寺は, 他の多くの作品がそうであるように, 男女の出逢いの場として有名であった。「しぐれ」という一般的な題名も, 清水寺のしぐれで雨宿りすることが中将と姫君の出逢いの機縁となっているのであり, 「しぐれ」や「雨宿り」という題名がある以上, 「清水物語」という題名があっても奇怪しくない。

12, 熊野の本地

①写本 ②KUMANO NO HONJI, The Origin of the Kumano Shrine 熊野の本地 ③CBJ 1006 (Sor. 23) ④くまのゝ本地 上 (中) (題簽・書・原・中) ⑤くまのゝほんち 上 (中) ⑥近世初期写 (反町氏は、「寛文延宝頃写」とする。) ⑦並 ⑧緑の布で覆われた厚紙の帙入り。⑨紺地に金泥で草花模様 ⑩金箔型押し地に九に牡丹・梅・蝶模様の卍繋ぎ ⑪鳥の子 (草花の下絵) ⑫袋綴 ⑬二冊 (本来三冊, 下冊は現存せず) ⑭28.2×22.5cm ⑮22.0×18.5cm ⑯計43丁 (資は59丁) 上冊21丁 (資30丁) (遊紙前後各1丁), 中冊22丁 (資29) (遊紙 前後各1丁) ⑰十一行 ⑱濃彩 上冊 七図 (二ウと三オ, 五オ, 六ウ, 九オ, 一四ウと一五オ, 一七ウ, 一九ウ), 中冊 六図 (三ウと四オ, 八ウ, 十オ, 一四ウ, 一六ウ, 二十オ) ⑲同封紙片「Kumano no Honji volumes I and II of 'The Manifestation at Kumano'. Story intended to set forth the virtues of the Buddhist deity Kannon. 16th century, Note the early Chinese (T'ang dynasty) costumes. Japanese.」とあって, 観音信仰や中国服に言及する。また, 表紙に「百四樓四 三冊之内」と墨書されており, チェスター・ビーティー図書館に入る前, 日本のどこかの大図書館に三冊揃いで所蔵されていたことが窺われる。内容的には, 話の中心となる五衰殿の女御の悲劇を中心に据えた伝本のため, 失われた下冊部分の量が少ないのであろう。

13, 文正草子

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI, The Tale of Bunsho 文正草子 ③CBJ 1011 (Sor. 37) ④ふんしやう 上 (中・下) (金泥題簽・書・原・左。但し, 中・下の題簽は, 中身とは逆。) ⑤なし ⑥近世中期写 (反町氏は、「延宝頃写」とする。) ⑦良 ⑧緑の布で覆われた厚紙の帙入り。⑨灰緑地に卍繋ぎ金欄竜紋 (資は団花文) ⑩布目金箔 ⑪鳥の子 (草花の下絵) ⑫袋綴 ⑬三冊 (中・下は逆。) ⑭25.9 (資は30.0) ×22.5cm ⑮23.0×17.0cm ⑯上冊 22丁 (遊紙 前1丁), 中冊 20丁 (遊紙 前1丁) 下冊

24丁(遊紙 前1丁) 計66丁。⑰10行 ⑱濃彩 19図 上冊 6図(二ウと三オ, 七オ, 十一オ, 十四ウ, 十七オ, 二十オ), 中冊 6図(三ウと四オ, 七ウ, 十ウ, 十二ウ, 十六ウ, 十八ウ) 下冊 7図(三オ, 六オ, 十オ, 十一ウ, 十四ウ, 十七ウ, 二十二オ) ⑲蔵書印 上巻に「嶺韻」, 下巻に「夢秀」がある。本書は装丁も絵も優れた逸品たることは、反町氏の解説の如くである。

14, 文正草子

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI, The Tale of Bunsho 文正草子 ③CBJ 1009 (Sor. 52) ④ふんしやう 上(中・下)(白地に金霞題簽・書・原・左。) ⑤なし ⑥近世中期写(反町氏は、「天和元禄頃」とする。) ⑦並 ⑧茶色の十字花唐草文様の布を厚紙に張った帙入り。⑨浅縹色地に瑞雲紋と金糸竜紋。⑩本文共紙(上冊 波に帆掛け舟, 中冊 蝶に草, 下冊 茅) ⑪鳥の子 ⑫列帖装 ⑬三冊 ⑭23.0×17.3cm ⑮18.0×13.5cm ⑯上冊22丁(資は25丁)(遊紙 後1丁), 中冊22丁(資は25丁)(遊紙 なし), 下冊22丁(資は24丁)(遊紙 なし) 計66丁。 ⑰10行 ⑱濃彩 14図 上冊 5図(二ウ, 六ウ, 十一オ, 十五オ, 十九オ), 中冊 5図(二ウ, 七オ, 十二ウ, 十七オ, 二十一オ) 下冊 4図(五ウと六オ, 十オ, 十五オ, 十九ウ) ⑲内蔵紙片に「Bunsho no Soshi, The Tale of Bunsho in the Nara-e-style. 17th to 18th century. Japanese.」とある。下冊見返しに次の記事がある。資は翻刻に誤りがあるので、訂正する。「きのふたにとはんとおもひし津の国のいくたのもりに秋は来にけり 此哥に色ゝ申人侍り 不足傳用之事あれはしるさすたゝこのもりの秋を賞するこゝろふかきゆへにきのふたにといふにや侍らん 又ある程に秋とたに吹きあへぬかせに色かはるいく田のもりの露のした草定家卿哥也 君まさとはは□物を津の国のいくいく(ママ)たのもりの秋ののはつかせ □ことくの歌かずおほし またある人正廣の卿かたられし説あり 尋ぬへし 又納涼の儀にきの」

15, 文正草子(絵のみ)

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI-E, painting of the Tale of Bunsho 8 sheets 文正草子絵 ③CBJ 1032 (Sor. 54) ④なし ⑤なし ⑥近世中期写 ⑦並 ⑧箱入り ⑨なし ⑩なし ⑪鳥の子(枠付きガラス板に納められている。) ⑫ガラス版 ⑬八枚 ⑭ガラス板 24.9×18.4cm (内法, 23.2×16.2cm) ⑯八丁 ⑰淡彩八図 ⑱内蔵紙片に「ふんしやう 8 Tosa Minutures Ac612 NARA 54 (S)」とある。

16, 文正草子

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI, The Tale of Bunsho 文正草子 ③CBJ 1015 (Sor. 47) ④文しやう物語 上(下)(朱に金泥の題簽・書・原・中) ⑤文正のさうし 上(下) ⑥近世中期写(反町氏は、「貞享元禄頃」とする。) ⑦良 ⑧鉄紺色の布を厚紙に張った帙入り。⑨問道(緑・茶・黄・青・赤)地に撫子文様 ⑩布目金箔 ⑪鳥の子 ⑫列帖装 ⑬二冊(もと三冊を二冊に編集し直したもの) ⑭24.5×18.5cm ⑮19.5×14.0cm ⑯上冊 37丁(遊紙 前後1丁ずつ), 下冊 35丁(遊紙 前後1丁ずつ) 計72丁。 ⑰10行 ⑱濃彩 12図 上冊 7図(三オ, 九ウ, 十六オ, 二十ウ, 二十五オ, 三十一ウ, 三十三ウ) 下冊 5図(七オ, 十三オ, 十九ウ, 二十八オ, 三十八ウ) ⑲本書は、フランスの著名な収集家ルイ・ゴンス氏の旧蔵書で、一九二六年のオークションで、チェスター・ビーティー卿が入手したものと学芸員のクレア・ポラード氏から教授を

受けた。フランス語で「Un guide du Tokaido」と裏見返しに書いてある。このことは、ルイ・ゴンス氏が本書を購入する際に、東海道の案内記として購入したことを示そう。文正草子の挿絵には、中將達の東下りや、姫君の上京の場面で東海道が登場し、鹿島も東海道の東の果てだから、絵だけを見て、そう考えても不思議はない。文学の内容ではなく、絵に関心を持って収集が行われたことを示す証拠となろう。

17, 文正草子

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI, The Tale of Bunsho 文正草子 ③CBJ 1019 (Sor. 53) ④なし ⑤なし ⑥近世中期写 (反町氏は、「延宝元禄頃」とする。) ⑦並 ⑧鉄紺色の布を厚紙に張った帙入り。⑨縹色綾地に花笠か鼓文に扇子・桜文様 ⑩本文共紙 ⑪鳥の子 (下絵に桜花模様) ⑫列帖装 ⑬一冊 (もと三冊を一冊に合冊し直したもの) ⑭23.6×17.4cm ⑮18.5×15.1cm ⑯70丁 (資は66丁) (遊紙前後2丁ずつ) ⑰10行 ⑱淡彩 13図 (三オ, 六ウ, 十一ウ, 一六オ, 一九オ, 二十五オ, 二十八ウ, 三十四ウ, 三十七ウ, 四十一オ, 五十四ウ, 五十九ウ, 六十四ウ)

18, 文正草子

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI EMAKI, The Tale of Bunsho 文正草子 ③CBJ 1186 (Sor. 9) ④ふんしやう物かたり (題簽・書・原・左) ⑤なし ⑥近世前期写 (反町氏は、「寛文頃」とする。) ⑦良 ⑧鉄紺色の布を厚紙に張った帙入り。⑨濃藍地に唐草模様 ⑩布目金箔 ⑪鳥の子 (下絵に草花模様) ⑫卷子本 ⑬二軸 (中・下のみで, 上巻を欠く) ⑭32.2×1436.5 (資は1397.6) cm (中巻) ×1443.5 (資は1412.4) cm (下巻) ⑮27.0cm ⑯濃彩 中巻 7図, 下巻 6図 (資は7面) ⑰反町氏が指摘するように, 絵や装丁が立派で, 上巻がないのが, 惜まれる。

19, 文正草子

①写本 ②BUNSHO NO SOSHI E, The Tale of Bunsho 文正草子 ③CBJ 1178 (Sor. 24) ④ふんしやう (題簽・書・原・左) ⑤なし ⑥近世中期写 (反町氏は、「寛文頃」とする。) ⑦良 ⑧細長い木箱入り。⑨濃藍色地に金欄花菱・糸束文様。⑩布目金箔 ⑪間似合 ⑫卷子本 ⑬一軸 ⑭33.3×568.0 (資は538) cm ⑮濃彩 十図

チェスター・ビーティー図書館には, 上記のような中世小説があるが, 中でも文正草子が多い。本文については, 冒頭部の舞台の説明で, 「さかよりひんがしとうハカ国」とある部分は, CBJ1011では「あふさかよりひんかし東ハケこく」, CBJ1015では「あうしうよりひんかしとうハカこく」となり, CBJ1019では「さうしうよりひんかしとうハカ国」とある。文意からしてCBJ1015の「奥州より東の関東ハカ国」やCBJ1011の「逢坂より東の関東ハカ国」では奇怪しいから, CBJ1009の「(足柄の) 坂より東の関東ハカ国」やCBJ1019の「相州 (即ち相模の国) より東の関東ハカ国」が最初で, 「さか」が「あふさか」になったり, 「さうしう」が「あうしう」に変わったりしたのであろう。

また, これらの挿絵は, 同じ場面が, 微妙に異なり, 精査すれば, 多くの成果を期待できる興味深い内容を有する。文正の座る位置も, 庭か敷石の上か, 庇か座敷かで, 異なるし, 人数や構図も伝本で異なり, チェスター・ビーティー図書館の所有するものだけでも変化に富んでいる。紙幅の関係もあって, 事実の指摘に止め, 詳しい報告は, 別の機会に行いたい。また, 『長恨歌』『聖徳太子伝』等残りのものは, 将来の課題としたい。

二、大英図書館所蔵の中世小説について

大英図書館は、もと大英博物館の図書部であったが、一九七三年に独立した。一八〇〇万冊とい膨大な図書を有する。日本の図書も多い。今回、約四〇点程閲覧したが、その中から中世小説関係のものについて調査を報告する。書誌については、ガードナー氏と川瀬氏⁽⁵⁾のものが既にあり、極めて信頼できる。ガードナー氏の目録に含まれてないものもあるので、中世小説の分を纏めて以下、掲載する。

1、俵藤太物語

①刊本 ②TAWARA TODA MONOGATARI 俵藤太物語 ③16107 C 54 ④俵藤太物語 上(下) (題簽・刷・原・左・双) ⑤なし ⑥寛永頃(1624~44) ⑦並 ⑧厚紙の帙入り。⑨銀鼠無地 ⑩本文共紙 ⑪半紙 ⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭25.9×18.1cm ⑮17.8×14.0cm ⑯前六十四丁 上冊 三二丁半(遊紙 なし), 下冊三一丁半(遊紙 なし) ⑰十行 ⑱墨印 上冊 七図(三ウ, 七ウ, 十二ウ, 十五オ, 二二ウ, 二五オ, 二八ウ) 下冊 七図(五オ, 六ウ, 十一オ, 十五ウ, 十七オ, 十九オ, 二四ウ) ⑲帙の表書きに歳暮のご祝儀等お祝いの言葉が並び、中の貼紙には、「妙薬妙法 寶因蔭全」とある。本書の内容にあったおめでたい字句で彩られた帙と言える。一オの「しゆしやくるんの御時」の横に「人王六十一代」とあるのは別筆による書き入れで、他にも見られる。柱書きの丁数は、九と十が一つになっているので、実際は一丁少ない。1959年5月11日に木内書店から購入している。

2、文正草子

①写本 ②ぶんしやう ③OR 13130 ④ぶんしやう 上(中・下) (題簽・書・原・左) ⑤なし ⑥江戸初期 ⑦良 ⑧布製の帙入り。⑨藍地に金泥で雪釣り、沢瀉模様(上冊), 桜川と花筏(中冊), 舟と葦原(下冊) ⑩金紙。卍崩しに蓮の花。⑪美濃斐紙 ⑫袋綴 ⑬三冊 ⑭24.7×18.0cm ⑮字高 19.5×13.5cm ⑯上冊 二九丁(遊紙 なし), 中冊 三三丁(遊紙 なし), 下冊 二九丁(遊紙 なし) ⑰九行 ⑱濃彩 上冊 六図(二ウ, 六オ, 九ウ, 十六オ, 二一オ, 二六ウ), 中冊 五図(十ウ, 十五ウ, 二十オ, 二五ウ, 三一ウ), 下冊 三図(八ウと九オ, 十二ウ, 二一オ) ⑲「京都杉浦丘園文庫御所蔵」とあって、杉浦丘園の旧蔵。1967年12月28日に、東京の一誠堂書店より購入。

3、文正草子

①刊本 ②ぶんしやうのさうし ③16107g 18 ④文しやうさうし 上 (題簽・書・原・左) ⑤ぶんしやうのさうし 上(下) ⑥寛文四年 ⑦良 ⑧茜色布張りの箱入り。⑨浅縹色地に紗綾形文様。⑩本文共紙 ⑪美濃紙。⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭26.1×18.9cm ⑮五四丁(遊紙 なし) ⑰十一行 ⑱墨印 十二図 上冊二ウ, 七ウ, 十二ウ, 十六オ, 十九ウ, 二十四オ, 下冊 四オ, 八ウ, 十三ウ, 十八オ, 二十四ウ, 二十八ウ ⑲刊記「寛文四年甲辰十二月吉日 長尾平兵衛」また、上巻の見返しに、「BUNSHO-ZOSHI Bunsho-zoshi. One of the original 23 Otogi-zoshi novels. Illustrations in Tosa style. 2 vols. Kyoto? 1664 Richard Lane Collection.」という貼紙がある。リチャード・レイン氏の旧蔵本と分かる。ガードナー氏に抛れば、1956年11月19日にレイン氏より購入。絵は、絵巻や奈良絵本の挿絵を簡略化したもの。

4, 文正草子

①刊本 ②文正さうし ③16107 g 27 ④文正さうし（題簽・書・原・中・単）⑤なし
 ⑥江戸初期 ⑦並 ⑧紺の帙入り ⑨鉄紺地に草花模様 ⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴
 ⑬合一冊（上下の合）⑭15.7×22.7cm（横本）⑮匡郭 12.5×20.5cm ⑯五七丁半（遊紙 前一丁）⑰本文 十三行 ⑱墨印 一六図（三オ、五オ、七ウ、十一ウ、十四オ、十九ウ、二十一オ、二十五ウ、三十ウ、三十六オ、三十九ウ、四十五オ、四十八オ、五十ウ、五十三オ、五十六ウ）⑲見返しに「汲古堂」とある。OR.75.g.15の『御伽草子』の「文正草子」と中身は同じである。1958年4月14日、反町茂雄氏から購入。

5, はちかづき

①写本 ②はちかづき ③OR 12885 ④鉢かつき 上（中・下）（題簽・書・後・左）（原装は、はちかづき）⑤なし ⑥江戸初期 ⑦並 ⑧布張り帙入り。⑨紺地に金で、笹（上冊）、笹龍胆（中冊）、藤（下冊）の模様。⑩見返し 銀で麻の葉模様 ⑪間似合紙 ⑫袋綴 ⑬三冊 ⑭16.5×23.8cm（横本） ⑮12.5×23.8cm ⑯上冊 二〇丁（遊紙 なし）、中冊 一七丁（遊紙 なし）、下冊 一六丁（遊紙 なし）⑰一三行 ⑱濃彩 上冊 五図（二ウ、四オ、八ウ、十二ウ、一四ウ）、中冊 五図（三ウ、六オ、七ウ、十オ、一五ウ）、下冊 五図（四ウ、八オ、十オ、一二オ、一五ウ）⑲本書の絵は、一五枚とも、他の「はちかづき」の絵との違いが大きい。蔵書印「 図書」 本文は、寛永頃の製版本と漢字仮名の違い程度でほぼ同じ。

6, はちかづき

①刊本 ②繪入 はちかづき ③16108 b 10 ④繪入 はちかづき 上（下）（題簽・刷・原・左）⑤はちかづき 上（下）⑥寛文六年 ⑦並 ⑧ハードカバー ⑨濃藍刷毛目（裏表紙なし）⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴 ⑬合一冊（全二冊）⑭27.3×18.5cm ⑮22.1cm×17.2cm ⑯二〇.五丁（遊紙 なし）⑰一六行 ⑱墨印 四図八面 上冊 ニウと三オ（柱の丁数は三ウと四オ）、七ウと八オ（柱の丁数は、八ウと九オ）、下冊 ニウと三オ（柱は三ウと四オ）、七ウと八オ（柱は八ウと九オ）⑲刊記に「寛文六 丙午年二月吉日 山本九左衛門板」とある。蔵書印に「英国薩道蔵書」とあり。アーネスト・サトウの旧蔵書である。なお、柱の丁数は、上下とも一丁ずつ抜けているので、実際の丁数と合わない。1894年2月13日に、ウィリアム・アンダーソン氏から購入。

7, はちかづき

①写本 ②鉢かづき ③OR 12897 ④左肩に剥落の跡有り ⑤なし ⑥明暦頃 ⑦不良（破損・汚損・疲弊あり）⑧紺の布張りの帙入り。⑨鉄紺地に草花模様。剥落激し。⑩本文共紙 ⑪金で草花、青で摺文様の料紙 ⑫袋綴 ⑬三冊 ⑭29.8×22.3cm ⑮24.0×18.5cm ⑯五四.五丁（遊紙 下冊の前一丁）上冊 二〇丁、中冊 十九丁、下冊 十五丁半 ⑰十行 ⑱濃彩 上冊 ニウと三オ、五オは絵の痕跡のみ。九オ、十四オ、十五ウ、十九オ。中冊 三オ（絵は半分欠落）、六オ、十オ、十一ウ、十四ウ、十七ウと十八オ。下冊 三ウと四オ、七ウと八オ（八オは部分欠落）⑲絵は大和絵風の細微で美しい絵だが、残念ながら痛みが激しい。蔵書印に「岩」と「丸に新」の黒印がある。

8, 梵天国

①写本 ②橋たての本地 ③OR 12174 ④橋たてほん地 一（鶯茶の題簽・書・原・左）⑤なし ⑥室町末期 ⑦良 ⑧箱と袋入り。⑨鶯茶地に卍繋ぎ、丸に瑞雲模様。

現在、外包みとして、抹茶色地に八弁の花形と四角状の花格子模様の上に紗綾形繫ぎに草花・鳥を配した模様の包みで覆われている。⑩金で波形模様 ⑪鳥の子 ⑫卷子本 ⑬一軸（本来は、上下揃い。現在は上巻のみ存。）⑭31.2×1302.9cm（見返しを含めば、1339.9cm）⑮二八cm ⑯濃彩 九面

9, 御伽草子

①刊本 ②御伽草子 ③OR 75 g 15 ④文正草子 一（なゝくさ草子 七、のせさるさうし 十五）⑤なし ⑥江戸初期 ⑦並 ⑧ハードカバー。⑨鉄紺地に松橋蝶模様。⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴 ⑬合三冊（全二十三冊を三冊に纏めたもの）⑭15.3×22.0cm（横本）⑮12.0×19.5cm ⑯全六六一丁（遊紙 なし）⑰十三行 ⑱墨印 多数 ⑲その他 蔵書印は「英国薩道蔵書」で、Sir Ernest Satow の旧蔵。ケンペルやシーボルトと、このサトウやアンダーソンの蔵書が大英図書館に所蔵されるに至った経緯は、大英図書館の東洋並旧印度省コレクション日本コレクション部長のユーイン・ブラウン氏の説明に詳しい。本書は、⁽⁶¹⁾ 渋川清右衛門版の後印本で刊記はない。1885年6月13日、サトウより入手。

10, 四十二の物諍

①写本 ②四十二の物諍 上（下） ③OR 903 及び OR 902 ④和歌繪巻物（題簽・原・書・左）⑤なし ⑥江戸初期 ⑦良 ⑧30.2×12.2×7.0cmの厚紙の箱に入る。但し、現在は、過って、OR 905 の『建保歌合』と一緒にになっている。（後述）⑨鉄紺地に金砂子散らし、霞に蓮華模様。⑩鉄紺地に金箔と霞文様。⑪鳥の子 ⑫卷子本 ⑬一冊（全二冊。下冊は、整理番号 OR 902 に「四十二の物諍下」があり、揃いとなっている。かつて整理した時に上下を間違えたいらしい。現在、川瀬氏の目録では、下巻は、OR 905 となっているが、これは、『建保歌合』（安永三年（一七七五）、伊勢平蔵貞丈写）であって全くの別物である。どちらも、シーボルトの旧蔵であったため、混乱が生じたようである。大英図書館も、今後訂正するとのことである。）⑭28.0×762.9cm（上冊）×777.8cm（下冊）⑮24.0cm ⑯淡彩 歌人ごとに全身像が描かれている優品である。⑰シーボルトの旧蔵書である。

11, 唐糸草子

①写本 ②からいと 上（下） ③OR 876 b 及び 877 ④からいと 上（下）（銀の題簽・墨書・原・左）⑤なし ⑥江戸初期 ⑦良 ⑧黄土色の厚紙の箱入り。緑のステッカー ⑨錆青磁地に唐草瑞雲模様 ⑩金布目地 ⑪鳥の子（金で草花の下絵。料紙の裏に銀箔）⑫卷子本 ⑬二軸（現在の保存形態は、上下を別々の箱に収納）⑭上巻 30.1×1099.0cm 下巻 30.6×1214.0cm ⑮26.5cm ⑯濃彩 上冊 六面 下冊 五面 ⑰本書は、シーボルトの旧蔵書である。上下の巻末に「22. JY .68」の朱印があり、シーボルトの息子で、江戸の英国公使館日本語通訳のアレクサンダーから、1868年7月22日に大英博物館が入手したものである。

12, 蛤の草紙

①刊本 ②蛤の双紙 ③16107 g 26 ④蛤の草紙 十一（朱の題簽・墨書・原・中）⑤なし ⑥江戸初期（延宝～享保）⑦並 ⑧紺の布張りの帙入り。⑨鉄紺地に霞・蝶・蕨・杉菜 ⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴 ⑬一冊（所謂、渋川版『御伽草子』の中の一冊。⑭15.8×22.7cm ⑮12.5×20.5cm ⑯三一丁（遊紙 前一丁）⑰一三行 ⑱墨印 十一

図（三オ，五オ，七ウ，十オ，十四ウ，十七ウ，十九オ，二十一オ，二十四ウ，二十六ウ，二十七ウ）⑨その他 汲古堂旧蔵 1958年4月14日反町茂雄氏より購入。

13, 松竹物語

①写本 ②松竹物語 ③OR 13385 ④外題 松竹物語繪卷（反町茂雄氏の書のようにある。）後補。⑤なし ⑥明暦頃写 ⑦良 ⑧桐箱で絹布に包まれる。絹布にマジックで「松竹物語」と墨書。箱横の貼紙に「松竹物語繪卷」 ⑨藍色地に金襴寿字宝尽くし文様 ⑩金砂子 ⑪鳥の子。金で草木・山水模様。⑫卷子本 ⑬一軸 ⑭33.0×1023.7cm ⑮19.0cm ⑯絵 濃彩 五図 ⑰巻末に反町茂雄氏，弘文荘の蔵書印があり，反町氏の手を経て大英図書館に入ったことが分かる。

14, 酒呑童子

①写本 ②大江山酒呑童子 ③OR 984 ④大江山酒呑童子圖（直・書・原・左）別題 29 大江山酒呑童子三図一冊。1033 大江山酒呑童子ノ図。⑤なし ⑥近世末期 ⑦並 ⑧ハードカバーの洋装。⑨本文共紙（原装）⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫折本法帳仕立て ⑬一冊（上のみ。下欠） ⑭39.8×28.0cm ⑮30丁（絵のみ）⑯淡彩 一二場面 ⑰絵のみで，字はない。絵の内容は，典型的な酒呑童子の図柄である。線がしっかりしている。酒呑童子から出された姫君の足を頼光が，血を綱が飲み，それを酒呑童子や家来が眺める場面で終わっている。ちょうど半ばくらいなので，本来は，後半の部分がもう一冊あったであろう。一八六九年四月二二日に大英博物館に入っているのので，『唐糸草子』（シーボルト旧蔵）と同時に入ったことになる。なお，本書の紙背には，松本幸四郎（幡隋院長兵衛）・岩井桑三郎（芸者小いと）・市川団蔵（岩ふじ）・坂東三津右衛門（奥女中みつえ）・岩井紫若（つかひ神）・中村染五郎（奥女中）・嵐瑞光（中老おのへ）の六枚の歌舞伎役者の浮世絵がある。

15, 朝顔の露の宮

①刊本 ②あさかほのつゆ ③OR 65 ④あさかほのつゆ 上（題簽・書・原・左）⑤あさかほのつゆ ⑥寛永頃（一六二四～四四）頃刊 ⑦並 ⑧ハードカバー。洋装。⑨鉄紺地の紗綾形文様に朝顔・桔梗・蓮の花模様。⑩本文共紙 ⑪半紙 ⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭24.7×17.3cm（下冊の表紙は取られて，上冊と合冊になっている。）⑮20.5×15.0cm ⑯四九丁（遊紙 なし）⑰十一行 ⑱丹緑 十八図 上冊 九図 四ウ，七オ，十ウ，十四オ，一七オ，一九オ，二十一オ，二十三オ，二十五オ。下冊 二オ，五オ，八ウ，十一オ，十二ウ，十四ウ，十七オ，十九ウ，二十一ウ。⑲ハードカバーの上に「A TALE ASAGAWO NO TUYU 2 MAKI」とある。蔵書印には，「百井文庫稲廼舎蔵書」「只誠」「英国薩道蔵書」があり，関根只誠，アーネスト・サトウの旧蔵書であったことが分かる。1885年6月13日，サトウより入手。

16, 花鳥風月

①写本 ②花鳥風月 ③OR 12909 ④花鳥風月 上（下）（題簽・書・原・中）⑤なし ⑥江戸初め ⑦良 ⑧帙入り ⑨鉄紺地に金泥で草花木山文様 ⑩金地に二重丸の桐唐草文様。⑪鳥の子 ⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭17.9×25.4cm（横本）⑮14.0×22.5cm ⑯三〇丁（遊紙 なし）⑰十五行 ⑱濃彩 八図 上冊 四図 二オ，六オ，十オ，十三ウ。下冊 四図 二オ，六オ，九ウ，十三ウ。⑲一九六四年四月二日に東京の一誠堂書店より五万円で購入。本書の挿絵は，他との異同が大きく，興味深いものがある。

17, 桜の中将

①刊本 ②さくらの中将 ③16107 h 5 ④なし(剥落) ⑤さくらの中将 上(下) また、柱は、「さくら 上(下) 丁数」とある。⑥寛文十年版 ⑦並 ⑧帙入り ⑨納戸色無地 ⑩本文共紙 ⑪美濃紙 ⑫袋綴 ⑬合一冊(上下二冊の合) ⑭27.1×18.7 cm ⑮22.0×17.1cm ⑯二一.五丁(遊紙なし) ⑰十四行 ⑱墨印 十図 上冊 四図 一ウと二オ, 四オ, 六オ, 八オ。下冊 六図 二オ, 四オ, 五オ, 六オ, 八オ, 十オ。⑲刊記「寛文十年正月吉日 通油町 本問屋開板」。見返しに「此ほん細川若狭守殿, かく殿より受領 えんほう五年六月十九日」とある。一六七〇年に刊行された本書を一六七七年に入手したことになる。大英図書館は、1963年4月8日に、東京の一誠堂書店から購入している。

18, しぐれ

①刊本 ②あまやとり ③16107 h 8 ④あまやとり 上(中・下)(題簽・刷・原・左・単) ⑤雨やとり 上(中・下は、内題なし) また、柱は、「上(中・下) 丁数」とある。⑥明暦頃版 ⑦並 ⑧帙入り ⑨黒卍繫ぎ ⑩本文共紙 ⑪半紙 ⑫袋綴 ⑬三冊 ⑭25.5×18.2cm ⑮22.0×17.1cm ⑯七〇丁(遊紙なし) ⑰十行 ⑱墨印 十図 上冊 三図 五オ, 十一オ, 十九ウ。中冊 四図 八ウ, 十七ウ, 二十一オ, 二十九ウ。下冊 三図 九ウ, 十七オ, 二十一オ。⑲刊記等なし。蔵書印「緑漪書屋」「平出氏書室記」とあり、平出鏗二郎氏の旧蔵書と分かる。1964年4月2日に東京の琳楼閣より購入している。

19, 酒茶論

①刊本 ②酒茶論 ③OR 59 d 11 ④酒茶論 (題簽・書・原・左・単) ⑤なし ⑥寛永頃版 ⑦良 ⑧ハードカバー・洋装。⑨檜皮色無地 ⑩本文共紙 ⑪美濃紙 ⑫袋綴 ⑬一冊 ⑭26.2×19.6cm ⑮21.2×16.5cm ⑯一六丁(遊紙なし) ⑰十二行 ⑱なし ⑲書き入れとして、「慶長元歳丙申閏七月二日」があるが、ガードナー氏は、江戸後期に本書を古く見せるために書き入れたものであろうとする(目録の四〇二ページ)。恐らく、その通りであろう。一八八四年九月二二日にサトウから入手。但し、アーネスト・サトウの蔵書印はない。

20, 玉藻の草紙

①刊本 ②たまものさうし ③16107 h 11 ④たまものさうし 下(題簽・書・原・左・単)(上冊はなし) ⑤たまものさうし 上(下) 柱 「上(下) 丁数」⑥承応二年(1653) ⑦並(補修あり) ⑧紙に布を張った帙入り ⑨鉄紺無地刷毛目 ⑩本文共紙 ⑪半紙 ⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭25.8×17.2cm ⑮19.1×14.9cm (内法 18.8×14.3cm) ⑯41.5丁(遊紙なし) ⑰十行 ⑱墨印 一三図 上冊 五図 二オ, 八オ, 二十オ, 二十ウ, 二十三オ。下冊 三ウ, 五ウ, 六ウ, 七ウ, 十一オ, 十二オ, 十三オ, 十六オ。⑲刊記「承応二年三月吉辰 西田庄兵衛開板之」 上巻見返しに「安井氏」と墨書されている。また、「行啓紀念 大國文庫蔵書(朱) 明治四十年一月七日」とある。大英博物館は、一九六四年七月二九日に琳楼閣より購入している。本書は、チェスター・ビーティー図書館の絵巻と絵が極めて類似しており、影響関係が予想される。

21, 岩屋物語

①写本 ②いはや ③OR 12570 ④いはや 上(中・下)(題簽・書・原・中) ⑤な

し。⑥江戸初期 ⑦並 ⑧帙と袋入り。⑨鉄紺地金泥模様。⑩銀地丸に鶴亀と七宝繫ぎ。⑪鳥の子 ⑫袋綴 ⑬三冊 ⑭16.0×23.2cm（横本）⑮12.0×20.5cm ⑯72丁（遊紙なし）⑰13行 ⑱濃彩 15図 上冊 五図 四オ，八ウ，十一オ，十七ウ，二十二ウ。中冊 五図 六オ，九オ，十二オ，十五オ，二十オ，下冊 五図 二ウ，六ウ，十二ウ，一七ウ，二十二ウ。⑲蔵書印 弘文荘（反町茂雄氏旧蔵）

22. 弁慶物語

①写本 ②弁慶物語 ③OR 12439 ④弁慶物語 上（下）（朱に金霞の題簽・書・原・中）⑤なし。⑥江戸初期，寛文頃。⑦良 ⑧浦葉色雲竜文の厚紙の帙入り。⑨鉄紺地金泥草花・家屋模様。⑩金地丸に丸牡丹卍崩し ⑪鳥の子 ⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭28.0×22.4cm（横本）⑮22.5×17.5cm ⑯上52丁，下49丁（遊紙前後各一丁）⑰11行 ⑱濃彩 23図 上冊13図 二ウ，五オ，七オ，九ウ，十二ウ，十八ウ，二十二ウ，二十七オ，三十オ，三十四ウ，三十九オ，四十四ウ，四十九ウ。下冊10図 三オ，五ウ，十ウ，一四ウ，二十オ，二十五オ，三十二オ，三十七ウ，四十オ，四十六オ。⑲帙題に「Pres. by the Japanese Govt. 18, 1, 1960」とあって，昭和三五年に，時の岸首相から，英国へ寄贈されたものであることが分かる。牛若丸と弁慶が五条橋で立ち会う場面の挿絵は特に有名で，図版がよく利用されている。

23. 天狗の内裏

①写本 ②天狗の内裏 ③OR 13839 ④天狗の内裏 上（下）（簽・書・後・左）⑤なし。⑥江戸初期。⑦良 ⑧34×14.5×7.7cmの木箱入り。箱書「天狗の内裏絵巻 足利末期寫 極彩色 二巻」（反町氏の書らしい）。⑨白地に金糸で八角形の模様。赤の縁取りの中に竜紋・唐草格子文様。青・緑の糸も使用。⑩金・緑砂子散らし ⑪鳥の子 ⑫卷子本 ⑬二軸 ⑭30.7×938.1cm（上巻）×686.2cm（下巻）⑮濃彩 16図 上冊11図 下冊5図 ⑯本来，袋綴であったのを，卷子本に改装したものを。ユーイン・ブラウン氏に拠る詳しい英文解説が同封されている。

24. 鴉鷲合戦物語

①刊本 ②鴉鷲合戦物語 ③16107 C 53 ④鴉鷲合戦物語 元（享・利・貞）（直・刷原・左・単）⑤鴉鷲合戦物語 ⑥慶安二年。⑦並 ⑧紙包み入り。⑨浅縹色地横刷毛目模様。⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴 ⑬四冊 ⑭27.3×18.8cm ⑮22.5×16.5cm ⑯124丁半（遊紙なし，元36丁半，享30丁，利33丁半，貞24丁半）⑰本文17行。⑱絵なし。⑲刊記「慶安二年正月吉日 荒木利兵衛開板」とある。振り仮名により，「慶安」の年号の読みが「きょうあん」と分かる。蔵書印「浜田侯之府之図書」「温古堂文庫」により，浜田松平家，塙保己一の旧蔵と判明。1959年6月8日購入。購入先不明。

25. 青葉の笛の物語（仁明天皇物語）

①写本 ②青葉 ③OR 13131 ④あを葉（金に白霞の題簽・書・原・左・単）⑤なし ⑥明暦頃 ⑦良 ⑧29×22.3×6.5cmの桐の外箱の中の26×18.9×5.7cmの黒漆の金縁・紫の紐付き内箱に収納。箱書「Aoba Japanese BRIT. MUS. ORIENTAL MS. 13, 131」（外箱）「青葉」（内箱の上蓋に金文字で）⑨萌葱色地に金地で九曜の星に花輪・紗綾形団花文。⑩金布目地 ⑪鳥の子 ⑫列帖装 ⑬一冊 ⑭23.8×17.4cm ⑮17.5×13.5cm ⑯24丁（遊紙前1丁・後2丁）⑰10行。⑱濃彩 六図（二オ，五オ，十ウ，十三ウと十四オ，十七オ，二十ウ）⑲東京の一誠堂より購入。

26, 貴船の本地

①刊本 ②きふねの本地 ③OR 75 g 9 ④貴船の本地 (簽・刷・原・左・双) ⑤きふねの本地・上 (中・下) 柱「きふね 上 (中・下) 丁数」⑥承応・明暦頃 ⑦良 ⑧箱入り。⑨浅縹色地に銀で散らし。下半分に茜と縹で松葉模様。⑩本文共紙 ⑪半紙 ⑫袋綴 ⑬合一冊 (本来, 上中下の三冊) ⑭25.1×17.1cm ⑮20.6×15.4cm ⑯49丁半 (上14丁, 中16丁, 下19丁半) 遊紙なし ⑰10行 ⑱墨印 九図 (上三図 三ウと四オ, 八ウ, 十一ウと十二オ。中三図 十五ウと十六オ, 十八ウ, 二十八ウと二十九オ。下三図 三十八ウと三十九オ, 四十四ウ, 四十八ウと四十九オ) ⑲朱の書き入れ有り。蔵書印「英国薩道蔵書」「南畝文庫」「百井文庫」「稲廼舎蔵書」「好文堂」があり, アーネスト・サトウ, 太田南畝, 百井為衡, 日下田足穂の旧蔵書であった (ガードナー氏の調査)。1894年3月21日, ウィリアム・アンダーソン氏より購入。

27, 三人法師

①刊本 ②絵入三人ほうし ③16107 h 17 ④絵入三人ほうし 上 (下) (簽・刷・原・左) ⑤三人ほうし 柱「三人ほうし」⑥明暦・万治頃 (寛文?) ⑦並 ⑧帙入り。⑨菜種色地に卍崩しに竜紋。⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴 ⑬二冊 ⑭26.9×18.7cm ⑮22.2×17.2cm ⑯20丁 (上10丁半, 下9丁半, 遊紙なし) ⑰10行 (柱書きの丁数とは1丁ずれる) ⑱墨印 四図 (上二図 ニウと三オ, 七ウと八オ。下二図 ニウと三オ, 七ウと八オ) ⑲蔵書印「福田文庫」(福田敬園旧蔵), 上見返しに「文久二戌年十月廿八日収得之。小本にも有之。カツシ本にも有之事。但三人物語とは別也。桃柳舎主人」とある。本文は, 他の伝本とあまり変わらない。1969年2月26日, 一誠堂より購入。

28, 秋夜長物語

①刊本 ②秋の夜長物語 ③OR 75 g 4 ④秋の夜長物語 (直・書・原・左) ⑤秋の夜長物語 ^{あき} _{よなかものかたり} ⑥寛永十九年 ⑦並 ⑧帙入り。⑨生壁色地に網目文様。⑩本文共紙 ⑪楮 ⑫袋綴 ⑬一冊 ⑭25.2×17.3cm ⑮21.4×16.4cm ⑯28丁 (遊紙なし) ⑰11行 ⑱絵なし ⑲墨の書き入れ有り。蔵書印「英国薩道蔵書」(アーネスト・サトウ旧蔵。1885年6月13日大英博物館入手。)。刊記「寛永十九年五月日安田十兵衛」。新日本古典文学大系『室町物語集』では, 「秋の夜の長物語」とするが, 内題から, 古く「秋の夜長物語」という呼称があったことが知られる。

29, 月日の本地

①刊本 ②月日のさうし ③OR 75 ff 14 ④月日のさうし (簽・書・原・左) ⑤月日のさうし 上 (下) ⑥元和・寛永頃 ⑦並 ⑧ハードカバー。⑨丁子色地に左上から右への刷毛目文様。⑩本文共紙 ⑪美濃紙 ⑫袋綴 ⑬合一冊 (上下の合冊) ⑭26.4×17.8cm ⑮30丁 (上22丁, 下8丁, 遊紙なし) ⑰11行 ⑱絵なし ⑲蔵書印「英国薩道蔵書」(アーネスト・サトウ旧蔵)。1884年9月22日大英博物館の入手。『古典籍複製叢刊』に原装影印有り。本書は古活字版の優品である。

30, 釈迦の本地

①刊本 ②釈迦の本地 ③16107 g 16 ④なし ⑤釈迦の本地 上 (下) 柱「釈迦の本地 上 (下) 丁数 魚尾あり」⑥寛永20年 ⑦並 ⑧ハードカバー。⑨鉄紺無地 ⑩本文共紙 ⑪半紙 ⑫袋綴 ⑬合一冊 (上下の合冊) ⑭26.3×17.3cm ⑮21.0×15.6 (内法20.4×14.7) cm ⑯45丁 (上22丁, 下23丁遊紙なし) ⑰11行 ⑱絵なし ⑲刊記

「寛永廿癸未九月吉日 橋屋源兵衛開板」1956年3月22日にグレンダイニング・セールで購入。

これら30点の中世小説から分かるように、大英図書館の所蔵作品は、絵巻物から版本まで、幅が広く、内容も多岐に渡っている。また、伝来の明確なものも多く、さすが大英図書館だと思わせるものが多い。奈良絵本や奈良絵巻を初めとして、挿絵と本文の関係等について、今後、精査する必要がある。

以上の30点の他に、ガードナー氏の目録には、『熊野の本地』（OR 75 g 13）、『二十四孝』（OR74 cc 6）『二十四孝』（OR 81 c 14）があるが、これらは、貸出中等の事情で閲覧出来なかった。またの機会を待ちたい。

注

- (1) 潮田淑子氏「チェスター・ビーティー コレクションと日本」（国文学研究資料館編『調査研究報告』十五号所収）、チェスター・ビーティー図書館発行の「CHESTER BEATTY LIBRARY DUBLIN」（TEXT: Patrick Henchy, EDITOR: James Plunkett）、並びに、『日本の物語絵 アイルランド・チェスター・ビーティー・コレクション』（サントリー美術館、1988）に拠る。
 - (2) 反町茂雄編『チェスタービーティーライブラリー蔵 日本繪入本及び繪本目録』（1979、弘文荘）「チェスタービーティー・ライブラリー所蔵 絵巻・絵本解題目録稿」（国文学研究資料館『調査研究報告』十五号（平成六年三月）所収）。
 - (3) 拙稿「中世小説『あめわかみこ』の七夕系本文二系統の新旧に関する一考察 ―絵と本文の齟齬を通して―」（愛媛大『愛文』23号、昭和六十二年一月）。なお「中世小説と散逸物語の関連についての研究（『風葉和歌集』所載の物語を中心として）（平成七年度～九年度文部省科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書（平成十年三月）や、「室町物語に於ける挿絵と本文の関係について」（『説話論集』第八集、説話と説話文学の会編、清文堂、平成十年八月）を参照されたし。
 - (4) 「近世・物語絵展図録」王舎城美術寶物館編、1994年10月を参照のこと。
 - (5) ケネス・B・ガードナー編『大英圖書館藏日本古版本目録』一九九三年、大英図書館・天理図書館発行、並びに川瀬一馬・岡田久司共編『大英圖書館所藏和漢書總目録』講談社、一九九六年
 - (6) ユーイン・ブラウン氏「世界に誇る大英図書館の日本コレクション」（Creo、1997年12月、9巻2号。神戸製鋼刊）に詳しい。
- （付記。チェスター・ビーティー図書館の学芸員クレア・ポラード氏、ケビン・マク・ルーリン氏、大英図書館の日本コレクション部長ユーイン・ブラウン氏、並びに学芸員のハミッシュ・トッド氏には、大変お世話になったことに対して厚く御礼申し上げます。
また、調査助手として終始協力してくれた妻眞紀にも感謝したい。）